



むぎの郷 通信

“麦の郷とは”住民のニーズから
生み出され、住民の手によって育てられる

January 2020

ソーシャル ファーム ピネル/くろしお作業所/麦の郷訪問看護ステーション/麦の郷居住福祉事業所/はぐるま共同作業所/はぐるま共同作業所 和の社/はぐるま共同作業所 ラ・テール/麦の郷印刷/障害者就業・生活支援センター つれもて/麦の郷 和歌山生活支援センター/麦の郷紀の川生活支援センター/ハートフルハウス 創/むぎピース/障害児者サポートセンター「麦の郷」/こじか園/第二こじか園/ソーシャルファームもぎたて/Po-zkk/六星舎/叶夢向/創cafe/事務所/麦の郷障害者地域リハビリテーション研究所

揮毫：伊藤静美 発行/麦の郷情報管理委員会 TEL(073)474-2466 FAX(073)474-4637 〒640-8301 和歌山市岩橋643 http://www.muginosato.jp

年末年始の取り組み



くろしお作業所
初詣 1.6(月)



第二こじか園
クリスマス会 12.25(水)



麦の郷紀の川生活支援センター
初詣 1.7(火)



麦の郷印刷 B型事業所
新年会 1.10(金)



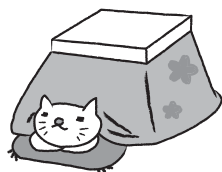
はぐるま共同作業所
えべっさん 1.10(金)

私たちのめざすもの ~麦の郷4つの理念~

- 1).麦の郷は、日々学び、育み、発信し続ける人材を育成し、地域福祉の発展を目指します。
- 2).私たちは、ものづくりを通じて障害のある人と地域の共存を実現し、互いに豊かになる実践を目指します。
- 3).私たちは、社会的不利の状態におかれている人々の課題を解決するために、広範な人々をつながりを深め、ともに社会変革をめざします。
- 4).麦の郷は、全ての人々が平和で安心して暮らせる社会づくりのために人の輪を紡いでいきます。



明けましておめでとーづーづーいいます



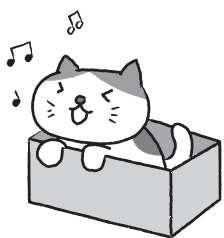
社会福祉法人
一麦会・麦の郷
理事長 山本 耕平

2020年の年頭にあたり、社会福祉法人一麦会（麦の郷）を代表してご挨拶申し上げます。麦の郷は、本年も、障害者問題のみならず、社会的に弱者や少数者と言われる方々の為に職員一同奮闘してまいります。私たちは、誰もが豊かなかつ平穏な日常を送ることができることを望んでいます。

しかし、今、私たちが住む日本は、決して豊かでも平穏でもありません。厚生労働省の国民生活基礎調査によりすると、日本は米国、中国に次ぐ世界第3位の経済大国ですが、7人に1人が貧困にあえぎ、母と子のひとり親世帯では半数以上が貧困に苦しむ状況があることが明らかになっています。国は、アベノミクスで貧困が改善したと言っていますが、それは、中間層の所得が落ち込んだため、「貧困層」にあたる人

の割合が見かけ上、少なくなったからであり、生活困窮者の所得や生活はなんら改善していません。また、昨年、深刻な課題として提起されてきたのが8050問題です。これは、ひきこもりの長期化・高齢化により、介護要求をもつ親がひきこもりの子どもと同居し、その家族が地域社会から孤立している状態を指すものです。さらに、昨年は、その他にも辛辣な児童虐待事件が多く報道されました。こうした状態にある日本は、今、危機状態にある社会と言えるのではないのでしょうか。

この危機状態にある社会を招いたのは、私たち国民一人ひとりの努力が足らなかつたからではありません。こうした社会のなかで、自分が努力し、それで足りないものは、お互いが助け合いましようという自助や相互扶助を大切にしようとして自己責任・家族責任の徹底を買い取ってきた為政者達により、今、私たちの安寧が危機に陥っているのです。私たち麦の郷は、「笑顔と元気第4次将来構想」



において、安倍長期政権を目指す「共生」、その政策としての「我が事、まるごと」は、真に共生社会を創り上げるのかという問いかけをおこなってきました。「我が事・丸ごと」は少子高齢化・社会保障費の限界を前提に、障害等の有無に関わらず地域住民による助け合い（「互助」）を「我が事」として、公的支援では対応できない人や、今後、公的制度から切り捨てられる人たちの課題に対応させることを目指すものです。さらに、既存制度の縦割りの「丸ごと」化（規制緩和）を進めることで、生産性と効率性を向上させることを目指しています。こうしたなかで、障害者福祉の介護保険化が進んできたのです。新年も障害者福祉における自己負担の波は収まることになりませんか？

2020年、私たち麦の郷は、政府が進める偽の共生社会にストップをかけ、真に障害のある人やなんらかの多様な生きづらさをもっている人が主人公となる真の共生社会を目指すとともに、今ある社会に主体的に向き合っていく仲間たちの育ちを目指してまいります。皆さまにとって素敵な2020年であることを願います。さらに、麦の郷の運営と発展の為に今後ともご指導・ご鞭撻願います。

麦の郷の年男・年女 今年の抱負



叶夢向
金本 吉次

健康で仕事頑張ります



くろしお作業所
宮本 高志

昨年はももいろクローバーZのライブ、そして40年間ファンである海外のバンドグループ、KISSのコンサートに行けたのが嬉しかった。日本に来るたびにライブに行きたいなと思っていたら、2019年最後にKISSラストジャパンツアーに行くことができました。とても嬉しかったです。2020年年男として、60歳に



はくるま共同作業所 和の社
山野 晃裕

なってもスポーツ大会に出場し、全国に向けて頑張ります。仕事も頑張り、元気にやっていきたいと思えます。

今年は何年男です。体調をくずさないように気をつけて、仲間と楽しく明るく過ごしたいです。仕事では今出来ている仕事を次の人にバトンタッチして自分は苦手なことや新しい色々な仕事に前向きにチャレンジしていきたいです。勤続20年を目指して頑張ります。



むぎヒース
雑賀 沙矢加

私は、毎日、むぎヒースで働いています。今やっている仕事は、唇ごはんづくりの仕事です。まず『今日のメニュー』を絵に描いて食堂に貼ります。



くろしお作業所
岡田 弘央

今日食べる人数を数えて、お盆出して、お盆に置く名札出し…お肉を炒めたり…出来上がった料理を運んで並べたり…使ったボールやまな板を洗ったり…。あとは、午後から食材の買い出しと夕食の配達もしています。買い出しは、私がカートを押しています。買い物袋話めもしています。お仕事がんばって続けていきたいです。これからやりたいのは、お花の絵をいっぱい描きたいです。そして、みんなに見てもらいたいです。見に来てほしいですね。



きょうとされん全国大会inあいちに参加して

10月25日(金)・26日(土)の二日間、愛知県にあります名古屋国際会議場にて「きょうとされん全国大会inあいち」が開催されました。私は相談・支援の分科会に参加させていただき、2日目に「生活介護事業65歳問題」についてレポート発表とグループワークが行われました。

レポートは、サポートセンター麦の郷の山本さんから「65歳問題をめぐって和歌山市との交渉の経緯について」、くろしお作業所の川崎さんからは「作業所での活動や支援員としての思いについて」、そして当事者である道本さんと妹さんが参加され、妹さんからは道本さんが作業所に通うことになった経緯や道本さんにとって作業所とはどんな場所なのかとお話をしていた



できました。その中で作業所へ通うことで何よりも代えがたいのは「仕事をして社会の一員として生きていけるといふ満足感を持てること」だという言葉に、作業所の職員として誇りを持つとともに守っていかねければならないかげがえのない場所だということに再認識させられました。そして道本さんからは「まだまだ体元気、仕事頑張ります」と報告していただきました。また、アドバイザーの山本耕平先生からは、すべての障害者一人ひとりが主人公として精いっぱい働き、人間としてたくましく豊かな人生を築くこと、それは当然ながら65才という年齢になったから終わりではなくその人一人ひとりが自分の人生を決められる社会を構築することであると話がありました。道本さんの作業所での姿を思い浮かべ、まさにその実践をしている方であると感じさせられました。

参加・資金組織部からのお知らせ

このたび、2020年10月23日(金)・24日(土)に開催されます。皆で学び合え、元気になる大会を和歌山から発信できればと思います。

(くろしお作業所 城 喜貴)



「星に語りて」「夜明け前」 和歌山市上映会

きょうとされん 40周年記念映画

12月13日(金) 午後2時、午後7時より「星に語りて」、午後5時30分より「夜明け前」をそれぞれの映画を和歌山県民文化会館大ホールにおいて上映会を開催しました。

この両映画はともに、きょうとされんが40周年を記念して製作された作品です。「夜明け前」は100年前に精神障害者が私宅監置されている状況から解放へと転換させた呉秀三医師のドキュメンタリー映画、また「星に語りて」は、東日本大震災後の東北を舞台として実際に障害者が体験した被災状況やスタッフが障害者の被災実態を調べるため、個人情報開示を迫る劇映画です。

13時には多くのわされん第2ブロック会員事業所のスタッフ、メンバーが集まり開場を待つ人が多く集まりました。そして開演2時前には

多くの席が埋まっている状態でした。実際にこの上映会を企画していく中で危惧していたことのひとつは、県文大ホールでおこなうことで人が入る会場であるため、あまり人が集まらなければ閑散としてしまい寂しい上映会となる懸念もありましたが、2回目、3回目の上映会とも1回目より少なかったですが、大勢の方が鑑賞に訪れてくださり合計800名以上の参加がありました。




自身を感じたことは、両映画は過去のことを描いていますが、今後も障害者が誤った理解に基づき政策がすすめられれば、また大災害などの非常時において災害時要援護者への配慮がされなければ...。そうなればまた映画と同じ「現実」が繰り返されることとなります。そのため障害者施策の充実や事業所での防災対策を今後も継続していく必要があります。

むぎ・わくわくレポート11

インフルラッシュ!!

昨年の1月下旬、一人の男性仲間がいつも通りに出勤してきました。朝の挨拶もミーティングでの様子もいつも通り。しかし、女性職員が、少し顔が赤いような気がするといって熱をはかってみました。なんと37度以上ありびっくり。父親に連絡して迎えに来てもらい医者に連れて行ってもらいました。結果はインフル確定。そのため、作業場や休憩室に菌が充満しているかもという事が気になったので、翌朝一番に出勤者全員の熱をはかると5人が37度以上、欠席者2名。その後の数日間数々が追加。そのため、2月中旬まで職員を含めて出勤者が8名前後という日々が続きました。女性職員3名の早期発見にもかかわらずこのような状態になりました。しかし、年末年始対策でみんなが頑張った大量に製品を作っていたためなんとかのり切れました。得意先に迷惑をおかけするようないことがなくてよかったです。なかまのがんばりのおかげです。また、ホーム利用者も含まれていたためホームの職員とも連携し徹底した予防対策をしていきました。みんなで毎日挨拶、会話をしてお互いの体調等を確認し、インフルエンザが猛威をふるうこのシーズンを乗り越えましょう。

(叶夢向 田村 知己)




『10周年記念企画』 「あなたと創る文化祭」 ハートフルハウス創

ハートフルハウス創がひきこもり支援を始めて10周年を迎え、これまで行ってきた活動の集大成とも言える節目のイベントとして、10月22日「あなたと創る文化祭」を開催しました。

昨年末の「しゃべぐる会」でみんなの「やってみよう」と「を出し合ってみよう」と「これって文化祭みたい！」と盛り上がり「そつえば来年は創の10周年や！」と突如湧き上がった創文化祭企画。演劇部や手芸部の他に、これを機に新たにマジック部や写真部も発足され、部会で集まったの準備や全体会議を重ねて、みんなのアイデアで少しずつ形づくりをしていきました。

ステージ企画では、今までどのしんどかった時の状況から創の活動を通して少しずつ変化してきた気持ちなど当事者の体験談がトークセッション形式で語られました。そして下川さん脚本の演劇「満足旅行」の披露。最後は春から練習を重ねてきたマジック部のショーで会場を驚きの渦に巻き込みました。展示企画は、写真部の写真展。販売企画では手芸部のハンドメイドアクセサリー、創力フェ



としてフランクフルトなどを出店。他にも子どもたちと一緒に遊ぶコーナーを担当してくれたメンバー。

そして粉河高校生にはカフェを運営してもらい、地域の方や関係団体の方にも飲食の出店にご協力頂きました。当日は県内外からなんと250名ほどの人が来てくださり、ひきこもりに関心のある方や日頃からご支援を頂いているたくさんの方に、創の活動を知って頂き、キラキラと輝くメンバーの活躍する姿を頂く機会となりました。

創では、厳しい競争や管理的な社会に馴染めず、疲弊し孤独になっていた若者たちがいます。彼らは常に「どこが自分の居場所なのか?」「なんのために生きるのか?」「自分の価値はどこにあるのか?」を探し続けています。

自分が自分であっていい、生きていてよかった!楽しい!と思える時間や場所を創りだすことが創の活動だと思っています。そんな中「やりたいことを実現しよう!」とメンバー主体で様々な部活動が生まれ、同じ趣味や目的で集まることにより距離が縮まり、「個」が「集団」となり、「仲間」になっていきます。そして表現したり、それぞれが役割を持ち、みんなで一つのモノを創りだすことによって達成感が得られ「楽しかったな。やってよかったな」「またやってみたいな!」という気持ちが生きる喜びや原動力となり、そのためには「少し自由になるお金も稼ぎたいな!」と意味付けされていくのだと思います。

今のひきこもり支援制度では相談窓口は相談のみ、居場所からゆるやかに就労につながるステップもあまり整備されておらず、一般就労にむけての訓練的な機関が多いです。なんのために働くのか?を模索している段階で無理や

は最高に。「何か壊れると突然大きなお金が必要になって大変な事になるよ」「少しずついいから貯金をしようね」「お金の貸し借りはしてはいけない事」などをわかりやすく説明してくれ、楽しく笑いあふれるお勉強会になりました。分かつてはいるもの、ついつい使いすぎてしまいがちなお金の話は、身近な課題なので改めて考えるいい機会になりました。本町会館までみんなでおしゃべりしながら歩いて行き、いつもとは少し違った行事になった事で、私も素敵な時間を過ごすことができました。

(和歌山生活支援センター 河本 多佳子)

第19弾 障害者週間 広がれネットワーク みんなでポッチャを楽しもう! ポッチャのお話と講演会

那賀圏域では、障害のある人が地域でこころゆたかな生活ができる社会を実現するために、障害者権利条約の理念を大切に「障害者週間 広がれネットワーク」を開催しており、今回で第19弾となり、色々なイベントが開催されました。12月15日(日)には、貴志川生涯学習センターで、ポッチャについて講演と体験会が開催されました。講演会では選手からポッチャの魅力や始めたきっかけなどの話を聞きました。

「ポッチャは重度の障害があっても楽しむことが出来るスポーツです。」「ポッチャを通じて様々な人とコミュニケーションを取り、生活にハリが出て、生きがいに繋がっている。」「と選手から話を聞くことが出来ました。その後、体験会では約40名の参加者がチームに分かれて選

手たちと一緒にポッチャを行いました。ほとんどの方がポッチャをするのが初めてでしたが、最後の1球まで勝敗が分からず、会場はとも盛り上がりました。参加したAさんから「今日のイベントに参加するまで、



ポッチャという競技を知らなかった。でも、体験してみても意外と楽しかった。障害者だけじゃなくて、大人、子ども、高齢者などみんなで楽しめるスポーツだったので、それがとてもよかった。もっと色々なスポーツをしてみたい。」と話してくれました。

和歌山県では、まだまだ認知度や競技人口が少ないポッチャ。正式な道具がなくても、新聞紙をボールに見立ててゲームを楽しむことが出来ます。今回のイベントを機にポッチャの輪が広がって欲しい。障害のある人がスポーツに触れる機会がもっと増えて欲しい。と私は感じました。みんなにスポーツを楽しむ機会を提供できるように、これからも活動を続けていきたいと思っています。

(麦の郷紀の川生活支援センター 西 加奈子)

救命士講習開催

2019年10月10日に麦の郷の地域交流室で麦の郷安全対策委員会による救命士講習が開催

り就労訓練ではなく、自分がこんな生き方をしたいな、働き方をしたいな...とゆっくり模索できる時間が必要だと思います。創が考える総合的支援は、相談から関係をつくり、居場所活動そしてゆるやかに働く場で様々なことにチャレンジしながら、行きつ戻りつ、できることを大切にしています。そのような時間や場の保障が公的に制度化され拡充していくことを願い、今後も魅力ある活動を創っていききたいと思っています。

(ハートフルハウス創 森橋 美穂)

お母さんへの勉強会

和歌山生活支援センター

11月6日(水)、本町会館をお借りして約20名が参加し、和歌山県金融広報委員会の金融広報アドバイザー田村富美先生をお迎えして、緊張した中ではなく、ワイワイガヤガヤとした中、勉強会が開催されました。まずは、年金と作業所のお給料を例にして、年金は2カ月に1回振り込まれるので「一度に全部使ってしまうと大変なことになるよね。」「どんな事にお金を使うのかな」と楽しいイラストを使って、必要なお金と使ってもいいお金の種類の仕方を説明してくれました。お話にどんどん引き込まれていき、あちらこちらから「そうそう!」「わかる!わかる!」「ドラゴンボール買いたーい」と声が聞こえてきて盛り上がり



されました。和歌山東消防署員を講師に招き、開催された救命士講習では緊急時の心肺蘇生や人工呼吸の方法、AEDの使用方法を教えていただき、グループを組んで模擬実践を行いました。講習では救急車が駆けつけるまでの数分の対処で生存率が劇的に変化することを説明され、救命士の技能がいかに重要かを理解することができました。

救命士講習を受ける動機によくあるのが、「いざ何かあったときに周りの人を助けることができるため」というものです。気候変動が激しく、災害大国と言われる日本ではいつ緊急時に出くわしてもおかしくありません。自身が応急手当の方法が分かっていると、周りの人を救えるかもしれない。じゃあ、私が緊急時に何かあったときに私を助けることが出来る人はいらっしゃいますか?救命士の資格取得者は取得するだけで終わってしまつのはとてももったいないことです。得た技能を周りの人に教えることで、緊急時の応急手当ができる人が増えます。そうすることで、緊急時にあったときに人命を救える確率があがるのはもちろんのこと、自身が緊急時にあっても助かる確率が高くなります。あなたの周りに救命士の人、または人命救助ができる人はいますか?いなければ次の機会に救命士講習を是非受けてみてください!

(ソーシャルファームピネル 勝山 陽太)





第18回 和歌山県作業所問題研究交流集会

『ONE TEAM』～今こそ一丸となって～

2020年2月29日(土)
和歌山県立情報交流センター Big・U
(〒646-0011 田辺市新庄町3353-9)

- 9:30 開場・受付
- 10:00 開会 主催者あいさつ
- 10:20 全大会(①、②同時開催)
 - ①講演会
「障害のある人と優生思想・優生保護法」(仮称)
鈴木静氏(愛媛大学 法文学部教授)
 - ②きょうされん第43回全国大会 in和歌山プレ企画
仲間の実行委員会(ふれあいの会)と
一緒に全国大会を盛り上げる準備をしましょう!
- 12:00 昼食休憩
- 13:00 分科会
- 16:30 閉会

参加費: 一般 2,000円 仲間 100円 介助者 500円 ※弁当の注文は別途 600円要ります
申込締切: 2020年2月12日(水) ※ポッチャ参加申し込み締め切り: 2020年1月31日(金)

■分科会■

- 第1分科会 高次脳機能障害 和歌山の課題とこれから ～医療と福祉の連携をめざして～
- 第2分科会 グループホームとは?? ～ホームでの悩み・困りごと・今後の展開を踏まえて～
- 第3分科会 障害者の労働権について考える ～働くって? 支援者の労働についても考えたい～
- 第4分科会 作業所はどのように運営されているの? ～報酬の仕組みを知ってみよう～
- 第5分科会 自立訓練事業における現状と課題について話し合おう!
- 第6分科会 仲間やメンバーの声に耳を傾けよう
- 第7分科会 働きがいや生きがいを見つけられる支援とは ～B型事業所ができること～
- 第8分科会 基礎から学ぼう! 知ろう! ～精神疾患と生きづらさ～
- 第9分科会 これからの生活介護について考える
- 第10分科会 パラスポーツを楽しもう! ～ポッチャ競技に挑戦～

※詳しくはわされん会員事業所に配布予定の開催要項(申込書つき) をご確認ください
主催: 和歌山県共同作業所連絡会(わされん)

SOMPOひまわり 生命保険株式会社様から ご寄付を頂きました

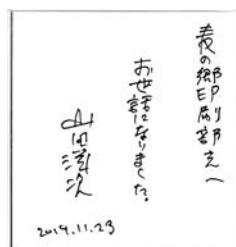
令和元年12月26日に生命保険協会さまよりタオル100本の寄付を頂きました。SOMPOひまわり生命の支社長が一麦会本部まで届けてくれました。グループホームで大切に使用させていただきます。(麦の郷居住福祉事業所 武田 賢二)



お帰り 寅さん

11月23日(土)、男はつらいよ最新作『男はつらいよ お帰り 寅さん』の先行上映会が山田洋次監督を迎えて、ジストシネマ和歌山にて開催され、麦の郷印刷では、主催のわかやま寅さん会代表の西本様からお声掛けいただき、当日配布パンフレットの作成をさせていただきました。

後日、福祉施設で作られたことに感動された山田監督から色紙をいただいたと西本様からご連絡がありました。うれしさとともに、私たちの仕事を気にかけてくださる方がいるんだと、身の引き締まる思いで有難く頂戴いたしました。山田洋次監督、この機会を与えていただいた西本様はじめ関係者の方々に心よりお祈り申し上げます。(麦の郷印刷 長谷 理世)



第43回 障害児者家族のつらさを広める
文化祭
テーマ つらさを広める! 家族のつらさを広める

和歌山県立情報交流センター Big・U
2020年 3/1日 10:00~15:00

和歌山県立体育館
和歌山県立中央図書館
和歌山県立中央公民館
和歌山県立中央図書館
和歌山県立中央公民館

入場無料
観覧券 300円
観覧券 (F) 400円 (B) 300円
観覧券 (A) 200円
観覧券 (C) 100円
観覧券 (D) 50円 (E) 30円